

「今月の1枚」

ケヤマハンノキ（カバノキ科） *Alnus hirsuta*



写真1 山も春めいてきました。ケヤマハンノキをはじめ、カバノキ科の木は葉が開く前に花をつけます。枝の先に垂れ下がったものは雄花がたくさん集まった花穂です。風によって花粉が運ばれるため花は地味です。



写真2 赤いものは雌花の花穂です。このようにカバノキ科は雄花と雌花を別々につくり、しかもひとつの木に雄花と雌花が同時につきます（雌雄同株）。ちなみに、ヤナギ類は雄花だけつける個体と雌花だけつける個体からなり（雌雄異株）、サクラなど多くの被子植物はひとつの花に雄性と雌性をもつ両性花のみをつけます。

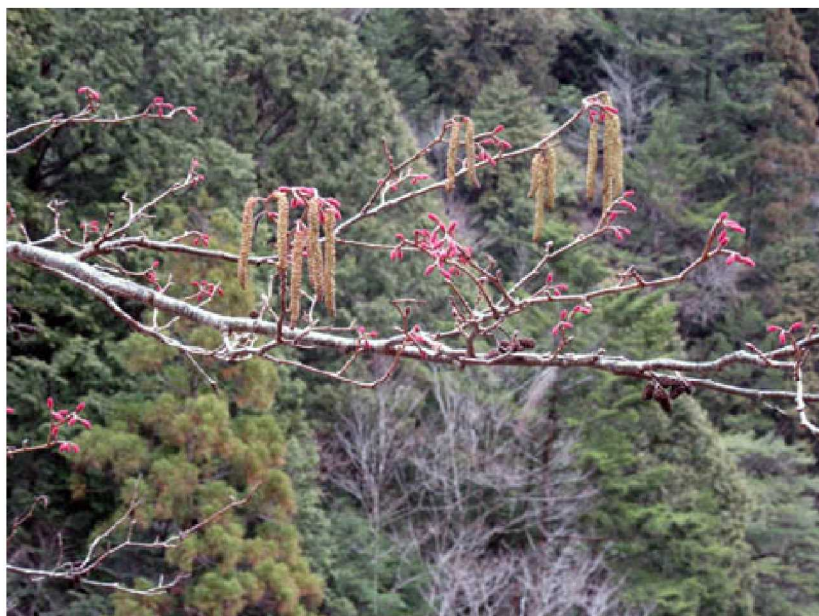


写真3 別の株の写真。右下に昨年の球果が残っています。写真2の雌花が成長するとこうなり秋から冬に翼のついた種子を飛ばします。カバノキ科は全部風まかせです。

(写真・文：酒井 敦 2016年3月10日 高知県馬路村にて撮影)

(No.259 2016.3.11 掲載)